

20261029_【閑話休題】体育大会が終わって…次は読書の秋

晴天の中、体育大会が挙行されました。

当日のあいさつや全校朝礼でも少し触れましたが、勝敗は出てしまってそこで終わりですが、本当の勝負は、そこからです。

体育大会という全校での取り組みの中で、感じた事・考えたことを、どのようにこれからの生活に生かしていけるかです。成長した姿が見れるのではと期待しています。

さて、先日、作家の村上龍さんの訃報に接しました。大好きな作家のひとりで、多くの作品に接し、大きな影響も受けました。

その報道に気づいたのが、ちょうど、体育大会の翌日のことで、前日のことを思い返しているときでした。その時、なぜか多くの村上龍さんの作品の中で、「KYOKO」という小説がふっと頭の中に浮かんできました。

気になって調べてみると、平成7年(1995年)に発表されていて、当然読んでいました。翌年に公開された映画も見に行きましたし、劇中の担当した NG La Banda(エネヘ・ラ・バンダ)のライブにも行きました。

村上龍さんの作品の中で、なぜ急に、と思い、いろいろ調べてみて、納得がいきました。

この小説のテーマの一つが、「人生とは何かを達成して終わるものではなく、常にどこかへ向かう途中だ」というものです。

体育大会をゴールと考えるのではなく、そこは通過点で、次に進んでほしいという思いとリンクしたのではないかと思います。

また、別のテーマとして、「希望は常に他人との係わりの中にあり、個人の内側から湧くというより、「誰かとの出会い」によって生まれるものだ」というものです。

体育大会をはじめ、さまざまな出会いを通して、成長していったほしいという思いとリンクしたのだらうと思います。

すっかり涼しくなって、いつの間にか日が暮れるのも早くなってきました。いろいろ忙しいと思いますが、ぜひ、気になる一冊を手にとってみてください。そこに素敵な出会いがあるかもしれません。そして、いつの日か、何かをきっかけに、ふと思い出したりするかもしれません。

私は、ベッドの周りを囲んだ数十冊の「積ん読」の中から、気になるものを乱読していきたいと思っています。